



# 青少年作文コンクール入賞者

心に残った出来事や、私を変えた一言など、自由なテーマで作文を募集したところ、334人から応募があり、次の皆さんが入賞しました（敬称略）。  
☎ 生涯学習課（☎62-1036）

## 最優秀賞 1人

「趣味と仕事」

山田暖人（株ジェイテクト高等学園）

## 優秀賞 10人

「大切な場所」

青山正幸（富士松南小5年）

「その笑顔は本当か」

池永朔都（富士松南小5年）

「名人はどこに」

兼子智光（富士松南小5年）

「ホタルが教えてくれた環境保護」

田村優衣（住吉小6年）

「将来の夢」

加藤虹花（富士松中1年）

「Power of smile!」

岡部優彩（雁が音中1年）

「中学生の私にできること」

鈴木彩永（雁が音中2年）

「自分の音を目指して」

木船帆乃佳（朝日中2年）

「今がやるべき」

小笠原咲妃（雁が音中3年）

「社会人になつての気付き」

竹内巧輝（株ジェイテクト高等学園）

## 最優秀賞

## 「趣味と仕事」

やまだはると  
山田暖人

私は趣味で小学生の頃から和太鼓を習っており、和太鼓を好きになってしまつて社会人となつた今も続けています。そして、ずっと教わつてばかりだった私も今では毎週火曜日の夜に小学生に教える立場となりました。

私は和太鼓のスキルを上げていくと同時に他にも色々な事を学ばせていただきました。

例えば、年上への敬意や敬語の使い方などです。チームには私よりも年上の先輩や大人もいます。チームの代表には昔から社会に出たら先輩を敬う事が大事だと言われていました。また、社会に出てから正しい敬語が使えないととても恥ずかしい思いをすることも教えていただきました。そして、社会人になつた今、目上の人も会話することが多いのでとても役に立っています。

他にもコミュニケーション能力もつきました。私の所属しているチームは小学生から年配の方まで幅広い年代で活動しているので色々な話をします。そして、この経験が今に生きています。会社に入つてすぐに友達もできて、上司とも緊張することなく会話ができました。

会社に入つて最も必要なものはコミュニケーション能力だと言われました。それを身につけてから社会人になる事ができたので良かったです。

このように私にとって和太鼓は人間性も成長させることができる場所で、所属していて良かったと深く感じています。

メンバーの皆には感謝の気持ちでいっぱいです。そして、小学生に教えることがチームへの恩返しだと思っています。与えられる側から与える側になつたのもっとチームをより良くできるように頑張りたいです。

仕事が十七時に終わり、片道一時間半の電車に乗って帰宅し、着替えただけで教えに行くという日々が四月から続いています。

学生の頃と違い時間に余裕がない中で毎週通う練習にはもう慣れましたが、最初はとても大変でした。学校に通う時の疲労とはまた違った疲労が仕事にはあると感じました。仕事は大変な事もありますが、とてもやりがいを感じています。ですが、他人からの評価や自分のできることを考えて自主的に自分が会社にどのよう貢献することができているのかをずっと考えてしまい、疲れてしまいます。そして、仕事が終わって家に帰るとすぐ疲労で寝てしまいます。しかし、和太鼓の練習だけは毎週休まず必ず通っています。

私にとって和太鼓は癒しであり、また来週叩くために仕事を頑張ろうと思わせてくれるものになりました。

社会人になつた今では責任というものがついてくるので仕事を第一に頑張りたいと思っています。ですが、和太鼓という大切な趣味を続けられるように仕事と趣味の両立をこれからも続けていきたいです。